PWBS
Peach Women's Business School

2026年度

Peach Women's Business School

第7回

登　壇　者：千葉工業大学
未来ロボット技術研究センター副所長

大和　秀彰　氏

講演テーマ：「ロボット技術と未来社会」

PEACH
CORPORATION

※　アンケートは受講者の回答をそのまま転記しております

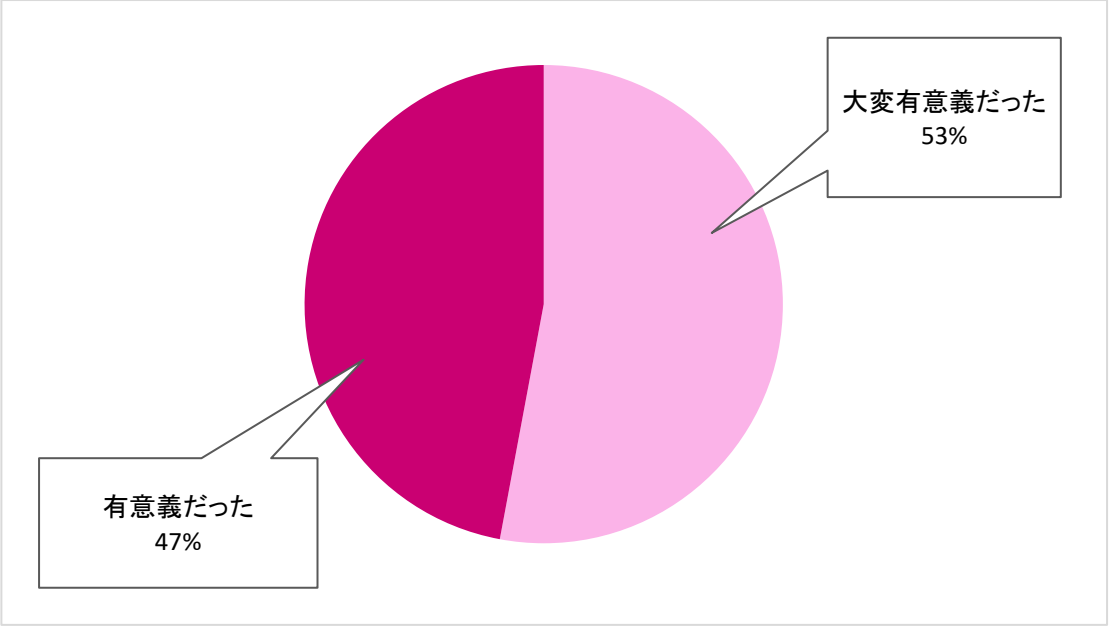
2026年度PWBS　第7回アンケート集計結果

研　修　日：2026年10月15日(木)

登　壇　者：千葉工業大学　未来ロボット技術研究センター副所長　　大和　秀彰　氏

講演テーマ：「ロボット技術と未来社会」

（1）今回の研修はいかがでしたか。【大変有意義だった，有意義だった，どちらともいえない，あまり有意義でなかった】



（2）研修の内容で印象に残った点をご記入ください。また、その理由を述べてください。

記念講演での大和先生のお話では、AIを活用したプログラミングなどを見せていただき、ロボットの製作にも積極的にAIが活用されていることを学びました。AIエージェント同士が連携してプロジェクトを進めたり、意見を共有しているところには、AIの活用がかなり進んでいると驚きました。 また、製作されているロボットには大和先生をはじめ研究者様達の思いや愛情も含まれており、とても素晴らしい活動をされていると感じました。 AIを使う側が判断や思いを持つことで、AIを活用しうまく共存できる社会をつくることが必要とのお話にも大変共感しました。
講演部分は聞けなかったんですが、パネルディスカッションでは、異業種のAI活用の紹介は大変参考になりました。
最も印象に残ったのは、AIの進化が単なる業務効率化にとどまらず、仕事の進め方や人間の役割そのものを変え始めている点です。特に、複数のAIエージェントが連携して業務を進め、人間は判断・監督を担うという事例に、近い将来の働き方を実感しました。「AIができること」と「AIに任せるべきこと」は異なるという視点を持ち、AIを活用しながら人間が担うべき役割を考えることが重要だと感じました。

福島第一原発でのロボット活用が一番印象に残りました。人が立ち入ることのできない環境で、人に代わってロボットが役割を担っていることに、技術の大きな可能性を感じました。また、そのような難しい課題に対して、試行錯誤しながらロボットの開発に取り組まれているチームの方々も素晴らしいと感じました。

ロボットやAIがあらかじめ全ての動作をプログラムされているのではなく、AI自身が試行錯誤を行いながら学習し、成功パターンを採用していくのが現在の開発であるということが最も印象に残りました。これまではロボットの動作全てが人間の計算によってなされるているというイメージを持っていたため、自主的に思考をして課題をクリアするという点に驚きました。しかし、非常に速い技術の進歩に「ついていけない」と遠ざけるのではなく、自ら積極的に活用して、自身の成長に結びつけていくことは今後のキャリアの上で重要であるとも感じております。

今回の研修を通じて、ロボット工学やAIが、人では対応が困難な作業を可能にし、さまざまな社会課題の解決につながる技術であることを改めて認識した。
特に災害現場など、充電機会が限られる環境でロボットを長時間稼働させるためには、エネルギー供給も重要な要素となる。自身が携わる水素についても、将来的にこうした分野のエネルギー源として貢献できる可能性を感じ、業務との新たな接点を考える有意義な機会となった。

少子化や労働力不足が進む中、フィジカルAIは今後ますます重要な役割を担うと感じました。講演で特に印象に残ったのは、現場の課題をAIやロボットで解決するためには、その前提として、質・量ともに十分な「学習データ」が必要であるという点です。技術そのものだけでは導入は進まず、現場の業務を理解し、データを蓄積・活用できる体制や人材を整えることが不可欠であると、改めて認識しました。デジタル人材の需要も、今後さらに高まっていくのではないかと思います。

今回の研修では、ロボット技術やフィジカルＡＩについて学び、想像以上に技術が進歩していることに驚きました。特に印象に残ったのは、ＡＩが情報を処理するだけでなく、周囲の状況を認識・判断し、ロボットを通じて実際に行動できるという点です。これまでＡＩはパソコン上で活用するものというイメージが強かったため、活用の幅が大きく広がっていることを実感しました。
また、こうした技術が発展することで、建設業界でも人手不足の解消や作業の効率化、安全性の向上に繋がる可能性があると感じました。
技術の進歩によって、今後は人が担う仕事や働き方も大きく変わっていくと思います。新しい技術をただ便利だと感じるだけでなく、自分たちの仕事にどのように取り入れられるかを考えることが大切だと感じました。

特に「CanguRo」が印象に残った。AIを活用して自律走行し、人の後ろをついていく機能に加え、移動時には乗り物へと変形する仕組みに驚いた。また、単なる移動手段や機械ではなく、パートナーのように人に寄り添う存在という発想が興味深く、ロボット技術の進化と、人とロボットの新たな関わり方の可能性を感じた。

複数のエージェントが会話し、人間のように連携して開発を進める場面が印象に残りました。
また、講演で触れられていたAIの暴走や悪用を防ぐためには、利用条件を厳格にし、実行できる操作や権限を制限するなど、技術的な制御も必要だと感じました。

ロボット自体が学習していて改善し、成長していく。想像していたロボットの世界とは全く違っていたことに驚きました。災害現場でも実際に活躍している動画も新鮮でした。人間1人にたいして、AI数人と仕事している光景にも驚きました。
急な依頼にも関わらず、講義してくださり最後まで真摯な対応をしてくださった講師の大和副所長に感動しました。

ロボット開発に携わっている方が、AI推進完全賛成ではなく、懸念を感じながらよりよく付き合わなければならないとおっしゃっていたことが大変印象的でした。
専門家の方だとどう発展させるかという視点が主体になると思い込んでたため驚き、同時に感銘を受けました。
サイバー攻撃もAIの進化によりスピード、規模ともに飛躍的に上がっていると聞きますし個人的にはAIには便利さを上回る脅威を感じています。
今回先生のお話にもあった、福島原発で当初投入されたアメリカ製のパックボットも軍用遠隔操作多目的ロボットであるということ、どんなものでも使用者によってどちらにもなりうるという考えで向き合っていけたらと思います。

複数のAIエージェントを部下のように働かせているというお話しが印象に残りました。研修後にAIエージェントについて調べると、35体のAIエージェントのみで構成された無人の部署を持つ企業の事例などを知り、AI活用のスピード感に驚かされました。今後はAIエージェントをうまく使いこなすスキルや、AIに代替できない価値を生み出すスキルが求められてくるため、時代の変化に取り残されないよう、リスキリングに取り組む重要性を再認識しました。

福島第一原発で活躍したロボットを開発されていたと伺い、研究所のロボットだったのかと驚きました。また、人のくらしを豊かにするためにフィジカルAIを活用してロボット開発をしていきたいという方針がすばらしいなと感じました。中国をはじめとする海外のロボット開発とはスピード感が違うのかなと思ったため、今後日本の特色をどう入れてくのか気になりました。

ロボット開発におけるフィジカルAIの活用のお話が興味深かったです。物理シュミレーターから大量の学習データを得る過程において、思惑通りの動きを習得できた際に報酬を与える、というのは人間や動物の教育・しつけと同じで、面白いなと感じました。

今回の講演を通じて、フィジカルAIが現実世界でさまざまな役割を担う可能性を持っていることを改めて実感しました。利便性や生産性の向上につながる反面、使い方によっては戦争目的にも利用される可能性があり、その活用には高い倫理観と責任が求められると感じました。
また、講演の中で「AIそのものが企業の競争力向上の源泉となり得ると思うか」という質問がありましたが、私はAIはあくまでツールであり、最終的な判断や意思決定は人が行うべきだと考えています。AIは業務効率化や新たな価値創出を支える有効な手段であり、企業競争力の向上に大きく貢献するものだと思います。しかし、AIを活かせるかどうかは活用する人や組織次第であり、技術そのものではなく、「どのように使うか」が重要であると感じました。

（3）自社または自身のAIの活用事例があれば挙げて下さい。また、今後AIに期待することについて、自身の考えを述べてください。

Copilotにて疑問点の壁打ちや資料作成、エクセルデータの集計等、議事録作成など基本的な機能をメインに活用しています。 これまで時間のかかっていた作業をCopilotに依頼することにより、効率化が図れその分お客様訪問の時間にあてたり、新たな提案の創出の時間に役立っています。 今後は工事の進捗管理やアラーム発動などがAIに任せられるとより効率化が図れるため、さらなる活用を目指します。 また、世界的に不正アクセスが横行しセキュリティレベルにや対策についての再検討が急務になっているが、そこでもAIを活用し不正アクセスをAIを使って排除できるように取り組む必要がある。 大和先生もお話がありましたが、AIをどのように使うべきかを全人類が改めて考える必要があり、不正アクセスにおける法整備なども急務であると考える。
・買い物では、迷う時に、品番や写真をAIに投げて、将来の運用や資産価値まで分析して比較表を作成してもらう。 ・晴れの日や行事の参加に、装いは、AIに天気要素も含めて全ての前提条件情報、手持ち洋服、体型等を共有して意見を聞く。 ・旅行の日程表、コース等のたたきはAIに作ってもらう。 ・peach講義の事前予習、買う予定の株の市場分析等 自分が子育て世代なので、子どもの教育に関心を持っています。 おそらく近いうちに世の中に知識や経験のようなものの取得は全てAIでできると思います。健全な人格と健康な体の養成はAIができないものです。 AIのおかけで、これから受験ための塾が不要となります。子どもたちは塾にかける時間、親は塾にかけるお金は、もっと有意義なところに使えることを期待しています。
自身の業務では、Copilot等の生成AIを、メールや報告書の推敲、議事録作成、資料の要約、情報整理、アイデア出しなどに活用しています。作業時間を短縮し、課題整理や関係者との調整など、より重要な業務に時間を充てられる点に効果を感じています。 今後は、過去の資料やメール、議事録等を横断的に整理し、課題やリスク、対応漏れ、次に取るべき行動を提示してくれる業務パートナーとしてのAI活用に期待しています。
日常業務でCopilotをほぼ毎日のように活用しています。音声データから議事録のたたき台を作成したり、文章の誤字脱字をチェックしたり、協議に行く際のレジュメや見積資料の比較表を作成したりと、さまざまな場面で活用しています。「これもCopilotでできるかな？」と思ったことを一度聞いてみると、意外とできることが多く、日々驚いています。 今後は、さらにAIが身近になり、活躍する場面が増えていくと思います。急いでいるときでも音声で自然にやり取りしながら作業を進められたり、社内に蓄積されている膨大な過去資料をAIが整理し、必要な情報をすぐに探し出して活用できたりするようになることを期待しています。
当社および周囲の業務では、定型業務の効率化を目的として自動化技術を進めています。例えば、毎月内容が大きく変わらない伝票の自動作成やシステムへの証憑添付作業の効率化、子会社各社の予算集計などが実現していますが、他にも活用範囲を広げられないか検討中です。 今後への期待ですが、現場業務の省力化や安全性向上への貢献などが挙げられると考えます。ごみ焼却施設の運営を行う子会社で、ごみ搬入時の受付業務の自動化や、安全な料金収受（電子マネーの利用も含め）は既に進められている内容ですが、更にはフィジカルAIがより進化した際には、焼却施設内の設備異常やトラブルが発生した場合の原因調査や、危険箇所での対応に活用できれば、ヒューマンエラーの低減や作業員の安全性確保、二次災害の防止に繋がると期待しています。

自身の業務では、AIを資料作成や文章の整理、面談内容の要旨作成などに活用している。また、新規事業のアイデアを検討する際には、企業や自治体の取組事例に関する情報収集・分析を行い、事業の可能性や方向性を検討するための材料としても活用している。

今後は、AIが単なる業務効率化のツールにとどまらず、さまざまな情報や事例を整理・分析し、人の発想を広げ、新規事業の創出や課題解決を支援するツールとしてさらに発展することを期待している。一方で、AIから得られた情報の正確性や妥当性を確認し、最終的には人が判断することが重要だと考えている。

個人としては、情報整理、議事録、メール、資料、データ分析、掲示物、防災帰宅マップなどの作成に生成AIを活用しています。資料のたたき台作成やアイデア出しの壁打ち相手としても有効であり、業務のスピードと質の向上、多面的な視点を得ることにつながっています。

一方で、AIの提案をそのまま採用するのではなく、「何を最も伝えるべきか」「読み手に何を感じ取ってほしいか」を見極め、メンバーとの対話を通じて意見を重ねることを大切にしています。AIの出力をどのように判断・評価するかについても、人が基準や仕組みを整える必要があります。AIは、人がより本質的な検討や創造的な業務に時間を使うための支援役であり、活用するからこそ、人ならではの判断力や対話力を磨いていくことが重要だと考えています。

自社では、機密情報や個人情報を適切に管理しながら利用できる社内向けの文章生成AIやシステム開発用APIを整備し、社員が安心して活用できる環境を構築しています。また、製品・サービスにもAIを活用し、省人化・省力化に貢献しています。今後は、こうした活用をさらに広げながら、業務効率化にとどまらない生産性の向上や、新たな価値の創出につなげていきたいと考えています。

私自身のＡＩ活用事例として、日常業務でのメール文面の作成や添削、資料の要約、専門用語や業務上の疑問点の確認などが挙げられます。
特に社外向けのメールを作成する際には、ＡＩを活用することで相手に失礼のない適切な表現を短時間で考えることができ、業務の効率化に繋がっています。
また、契約関連や建設業界特有の専門用語など、理解が難しい内容についてもＡＩを活用して調べることで、知識を深めるきっかけになっています。
資料作成やデータ入力、書類の確認など、時間のかかる定型業務をＡＩがサポートすることで、人がより重要な判断やコミュニケーションに時間を使えるようになれば良いと感じます。今後はＡＩに任せられる業務と人が判断すべき業務をうまく使い分けながら、より働きやすい環境が実現してほしいと思います。

日々の業務の効率化・自動化や情報整理のほか、研修のeラーニング教材や理解度テストの作成などにAIを活用しています。
 今後は、AIをうまく活用することで業務の負担を減らし、人が考えたり判断したりすることに、より時間を使えるようになることを期待しています。

AIとの壁打ちを通じた選択肢の検討や思考の整理、議事録・報告資料の作成、Excelでのデータ分析などに活用しています。単に作業を効率化するだけでなく、自分では気づかなかった論点や別の視点を得るためにも利用しています。

私自身、AI活用を推進する部署に所属していますが、利便性だけを優先し、十分な確認なしに利用が広がることには懸念もあります。特に、AIエージェントに業務処理を任せる際には、誤った判断や意図しない操作を防ぐため、利用ルールやガイドライン、人が確認・承認する範囲を整えることが重要だと考えています。

今後は、こうしたリスクへの対策を講じながら、AIエージェントによる定型業務や複数の作業の効率化に期待しています。AIの導入自体を目的とせず、確認・修正の手間も含めて効果を検証し、人が判断や検討に集中できる環境につなげたいと考えています。

自身はAIに対して【こわさ】のほうが強いので、あまり活用はしていませんが
チャットGPTで調べものをする程度です。今回の講義を通して思ったことは、AIに期待するよりも、【使い手がどうするか】という課題のほうが大きいということ。人に寄り添った考えのもとAIが発展していくことに期待します。

活発に使用しているのは別部署ですが営業の際、初動の企業情報の収集のとっかかりに使用していると聞いています。
私自身としてはエクセルにマクロを組みたい時や、化学品の組成等確認したい際の基礎的な情報収集手段としてAIを活用しています。
AIの結果をファクトチェックした際、誤っていることが多い為十分に信用できる結果を出してくれるようになれば今後不安なく利用でき、効率化につながると考えています。

弊社ではAI議事録のPlaud Webや生成AIのGeminiを導入しており、私自身はGeminiを以下のようなシーンで活用しています。
・社内報の文章作成補助
・同業他社の決算状況・事業動向の情報収集
・システムエラーなどが発生した際に、どこでエラーが起こっているかの特定
・自分で計算した財務指標の計算結果が合っているかの確認

物流業界ではトラックドライバーの長時間労働や物流センター内の作業負荷が課題となっているため、自動運転やロボットといったフィジカルAIのさらなる技術の進展に期待しています。（弊社でも自動運転やロボットの開発会社と連携し、実証実験を行っています）

営業業務の中で、見積の簡略化、毎月の受注出荷のトレンド確認などにAIを活用しています。AIが人手不足をどこまで補えるか、期待しています。

私自身は業務上あまりAIを活用していませんが、パネルディスカッションにて実際に活用されている皆様の話を聞いて、クリエイティブな業務のほか、分析的な業務にも活用できるものだと勉強になりました。パネルディスカッション時にも話題に上がっていた、言語化が難しい暗黙知のような技術もAIで精度高く再現できるようになれば、未来へ多くの技術や伝統を継承していけると思いました。
私は主にグループ会社向けの依頼文や社内メールの校正のほか、VBA作成による業務自動化や、各種調査の集計方法の検討にAIを使用しています。特に、多数のメール作成・送信や、メール添付ファイルの保存、調査回答状況の管理・集計作業において、作業手順の整理や資料作成の効率化に役立てています。 今後もAI技術は発展を続けていくと思いますが、社会課題の解決や人々の生活の利便性向上につながる形で活用されることを期待しています。